

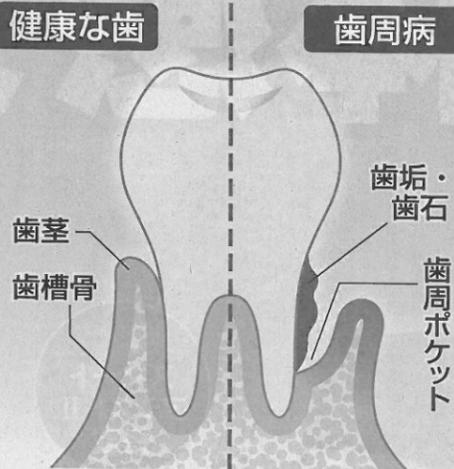
とくしま医療最前線

40歳以上の8割がかかっているとされる歯周病。悪化すると歯の土台となる歯槽骨が壊れ、歯を失う事態になる。だが、昨年12月に発売された新薬「リグロス」により、歯槽骨を再生させて歯が残せるようになった。新薬の臨床試験(治験)に携わった徳島大学病院歯周病科の二宮雅美外来医長に、リグロスを使った歯周組織の再生療法について聞いた。(山口和也)



二宮 雅美
徳島大学病院
歯周病科外来医長

歯周病は、歯と歯茎の境目に歯垢(食べカス)や歯石(硬くなった歯垢)が付着し、細菌に感染して炎症が生じる病気

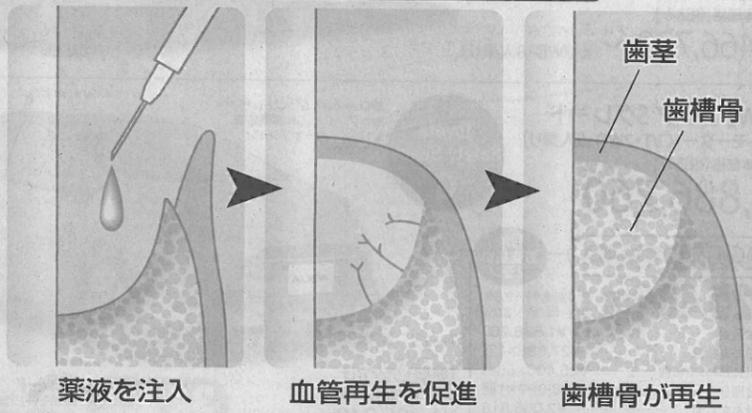


歯周病

だ。進行すると、歯周ポケットと呼ばれる歯茎の溝が深くなり、最終的には歯が抜けてしまう。治療法としては、原因となる歯垢や歯石を除去し、口の中を清潔に保つのが基本。初期段階なら、これで症状を改善させることができる。しかし、歯周ポケットが深くなりすぎると、外科治療「フラップ手術」が必要になる。フラップ手術では、歯

新薬で歯残せるように

リグロスによる歯周病治療



患部に注入 歯槽骨再生

茎を切開し、歯の根元に付着した歯石を取り除く。歯周ポケットが改善し、歯周病の進行が抑えられる。ただ、いったん失われた歯槽骨を元に戻すのは難しかった。リグロスを使った新しい治療法では、フラップ手術で歯石を取り除いた後、患部に薬液を注入する。リグロスの主成分は、体が傷を治す過程で分泌するタンパク質の一種。歯槽骨の周囲に再び血管を作り、細胞を活性化

リグロス投与9ヵ月後



歯周病で失われた歯槽骨が、リグロスを投与して9ヵ月後に再生した(二宮医師提供)



化させて歯槽骨の再生を促す作用がある。手術に要する時間は外れて1時間半〜2時間。従来のフラップ手術とはほとんど変わらない。手術後1〜2週間で抜糸となり、数カ月かけて歯槽骨の回復を待つ。

治療効果には個人差も

リグロスは、徳島大学病院など全国の歯科がある大規模な臨床試験(治験)が始まった。15年間で約千人の患者に治療を行い、世界初の歯周組織再生医薬品として、厚生労働省の承認を受けた。治療費は、医療保険が適用されるため原則3割負担で済む。実際の患者の負担が期待される。

額は1〜2万円になる。リグロスを使った新しい治療は、県内では2月から徳島大学病院で始まり、7月末時点で24人が受けている。治療も含め、深刻な副作用は起きていないという。5月からは、県内の歯科医院も導入できるように

徳島大学病院の問い合わせは、歯科(歯周病科)へ電088(633)7370。歯周病専門医は、日本歯周病学会のホームページ(<http://www.perio.jp/oster/>)に掲載している。(第1土曜掲載)

二宮外来医長は「歯周病の治療は、健康寿命を延ばすことにつながる。気になる症状があれば、専門医に相談してほしい」と話している。

歯周病は、糖尿病や動脈硬化といった全身疾患と深く関連することが分かっている。中でも糖尿病は、歯周病によって症状が悪化する場合もある。